

産業建設常任委員会

町営住宅整備に民間の力を活用

9月9日に産業建設常任委員会を開催し、町営住宅の整備・管理手法について説明を受けた。

【今後の考え方】

町営住宅の整備・管理についてはこれまで「公設公営」を採用してきたが、庁内において建築専門の技術職員を確保できていないため、従来の方式に固執することなく、民間活力を活用していく必要がある。

の立替施工制度をはじめ、空き家解体の促進を図る再生支援事業や町営住宅の管理支援事業を活用する方向である。

立替施工制度の手続きは次のように進められる。

- ① 公社と協定を締結。
- ② 公社が協定に基づき費用を立て替えて住宅を整備。
- ③ 完成後、住宅は町に引き渡され、町は一括か分割で事業費を返済。

【今年度の予定】
今年度は子育て支援住宅（Ⅱ期）の実施設計業務を委託する方向である。

【活用手法】
山形県住宅供給公社



現在の子育て支援住宅

質疑

【委員】この方法のメリット、デメリットはどのようなものがあるか。

【当局】公社への事務手数料として施工業者へ外注費5%の支払いがあるが、さまざまなメリットがある。

【委員】入札の予定価格も公社で設定するのか。

【当局】公社になるが、町の方針を伝えての設定になる。

【委員】維持管理業務を委託した場合の業務内容は。

【当局】現在はすべて町が直接対応しているが、すべて管理委託が可能なので、内容を選びながら委託したい。

快適に冬を越せるために

今年度の除雪計画について説明を受けた。

【今年度除雪計画】

昨年度は例年になく少雪のため、ロータリー専用路線の導入、西側地域へのドーザー一台追加など、路線の見直し調整による作業の目標時間内終了にかか

る効果検証を行えなかった。今年度は次の点に留意しながら計画する。

- ① 雪押し場の確保
- ② 歩道除雪への対応
- ③ 雪捨て場の確保

【持続可能な計画】

将来的にみて、オペレーターの確保・育成、除雪機械の維持などが課題となるため、今年度以降も降雪の状況によつては、機械損料に加えて人件費の補填料を支給する方向で検討していく。

また、除雪路線についても、人口減少や空き家の増加などにより、関係区と見直しについて協議していく。

質疑

【委員】ロータリー専用路線とは、ある程度の積雪が必要となったため使用している路線か。

【当局】最初からロータリー除雪車を使用する路線。幅員確保などの効果はあるが、検証しながら対応したい。

【委員】除雪路線見直しについて、把握している不要と思われる路線は。

【当局】地元区長と相談させていたが、時間がかけて検討させていたきたい。

その他
○ 白鷹町立地適正化計画策定の中間報告
○ 白鷹大橋開通に向けた取り組み
○ ふるさと森林公園再整備計画の状況について説明があった。